

旧川角中学校校門
昭和37年ごろ（匿名さん提供）

昭和37年の当時、川角中学校の校舎は、今の児童館のあたりにありました。校庭は現在の場所にあり、校庭に行くには道路を渡っていたそうです。今となっては、古い校舎もなくなってしまい、当時の面影を感じることはできなくなりました。

現在の風景



●お知らせ●

長い間、広報もろやまの裏表紙の顔として続けさせていただいている毛呂山思い出写真館は、掲載可能な写真が不足しているため、今後の掲載継続が難しくなっています。昭和60年代ごろまでの昔の写真が皆さんの家庭にも眠っていませんか？ 写真を貸していただけの方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎(295)2112 内線332までご連絡ください。

徒然歳時記

たなばた
七夕



7月7日は七夕です。七夕は、もともと織姫と牽牛にまつわる中国の伝説から生まれ、奈良時代には、宮中のお祭りとして行われていました。江戸時代になると、機織などの手習い事が上手な織姫にちなんで、裁縫や芸事の上達を願う行事として一般庶民の間にも広まってきました。

七夕といえば、「ささのはさらさら…」の歌詞で始まる童謡『たなばたさま』が有名です。この曲は埼玉県旧大利根町（現在の加須市）出身の下總皖一が作曲しました。

ところで、この曲の歌詞には、「五色の短冊」が出てきます。色とりどりの短冊に願い事を書くという習慣は、現在では一般的ですが、江戸時代から始まったものです。また、短冊に文字を書く際、イモの葉の露で墨をすると習字が上達するという言い伝えもあり、毛呂山町でも行われていました。

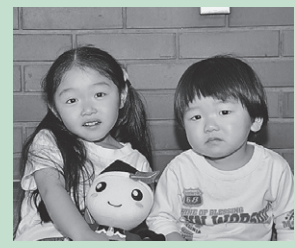
そのほか、仙台など地域によっては七夕の日に素麺を食べる習慣があります。これは、細長い麺を糸に見たてて、織姫のように裁縫が上手になることを願っていたという説があります。毛呂山町では、手打ちうどんをお供えし、飾った笹を川に流すといったことが行われていたそうです。

地域に古くから伝わる七夕にまつわる風習などを調べてみると、いつもとは違った祝い方ができるかもしれません。今年は星空が見られるといいですね。



5月号から表紙に「Proud! Japan(プライド！ジャパン)」というロゴマークを入れていました。これは全国各地の広報紙などで被災地の皆さんの応援をして、復興の力にしてみようという運動です。微力ながら毛呂山町でもこの運動に参加をし、少しでも被災地の皆さんの力になればと願っています。(1)

わがやのアイドル



酒井 花南ちゃん
(4歳4か月)
南連くん
(2歳3か月)

活発でひょうきんな花南ちゃん。一方、マイペースでおっとりとした南連くん。真逆な性格の二人です。

時にはケンカもするけれど、とても仲のいい姉弟です。パパとママの子供として、生まれてきてくれてありがとう。



小山 嘉深くん
(4歳6か月)
寛人くん
(2歳)

工作の大好きな嘉深と本が好きな寛人、時折けんかもするけれど、仲良しな2人です。これからもずっと仲良く大きくなってね。

■ 秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
☎・☎ 役場秘書広報課 ☎(295)2112 内線332

人口 36,331人 (-72人)
【男 18,096人 (-29人) 女 18,235人 (-43人)】
世帯 15,786戸 (+16戸)
※平成23年6月1日現在(カッコ)内は前月比

口広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。